科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	都市空間論 Theory of Urban Space and Architecture	担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	増井　正哉	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	火5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

われわれの生活環境、とくに居住地の環境は、都市・集落スケールの構想・計画にもとづく建設と、建築物スケールの更新の結果、形成されてきたものと見ることができる。こうした建設と更新は、建築物・近隣・集住単位など、さまざま規模・主体で行われる維持・管理（マネイジメント）によってコントロールされている。居住地それぞれの特徴的な空間構成や景観は、自然的条件を前提にしながら、建設・更新と維持・管理のバランスによってうみだされてきたのである。

いま、居住地の環境の保全・再生に取り組む地域は数多い。じっさい各地でその例を身近に見ることができる。ただ、建設・更新と維持・管理の適正なバランスが失われたり、建設・更新のみが先行して維持・管理の仕組みと整合が取れなかったりする例が少なからず見られることも事実である。

この授業では、授業担当者がその保存整備に関わってきた日本・アジアの歴史的都市・集落を例に、その環境形成史を建設・更新と維持・管理の視点から見ていくことにする。そして、環境の保全・再生にあたっての適正なバランス、仕組みの再構築について考えていきたい。

[到達目標]

・居住地における環境形成のプロセスを理解する。
・都市・集落の景観形成が、維持・管理のシステムとどのように関わっているかを理解する。
・地域再生・活性化において、維持・管理の仕組みをどのように再構築していくかの視点を理解する。

[授業計画と内容]

第１回目　はじめに：居住地の環境形成と維持・管理
第２回目　日本の都市における環境形成史(1)：古代都市（奈良の例）
第３回目　日本の都市における環境形成史(2)：近世城下町（大阪の例）
第４回目　日本の都市における環境形成史(3)：寺内町（奈良今井町・田原本の例）
第５回目　日本の都市における環境形成史(4)：宿場町（木曽１１宿の例）
第６回目　アジアの都市における環境形成史(1)：イスラム都市（ペシャーワルの例）
第７回目　アジアの都市における環境形成史(2)：中国（敦煌の例）
第８回目　日本の農村における環境形成史(1)：古代旧都の集落化（飛鳥・藤原の例）
第９回目　日本の農村における環境形成史(2)：山村（徳島県祖谷の例）
第10回目　日本の漁村における環境形成史：離島漁村（徳島県出羽島の例）
第11回目　アジアの農村における環境形成史(1)：パキスタンとアフガニスタン
第12回目　アジアの農村における環境形成史(2)：中国（甘粛省の農村）
第13回目　伝統的な環境維持・管理システムの再構築と歴史的環境保全(1)
第14回目　伝統的な環境維持・管理システムの再構築と歴史的環境保全(2)
第15回目　授業内レポート作成
フィードバックの方法については、別途指示する。

都市空間論(2)へ続く↓↓↓

都市空間論(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

最終レポート（５０点）、中間のレポート（４０点）、授業への積極的な参加（１０点）により評価する。

[教科書]

授業中に指示する
できるだけkulasisを使って配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・授業時、次回分の参考文献・webサイト等を指示するので、目を通しておくこと。
・毎回、授業内容に関連する事例と文献を紹介する。復習し、第１５回目の授業内レポートの準備をしておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

・オフィスアワー（KULASISに掲示）の来室、メールでの相談を歓迎します。